

4年生・修士2年生・既卒者対象 学内合同企業説明会



こやま ゆうじ
小山 祐司

就職部次長
安全安心生活デザイン学科 教授

今年度の就職内定率は、昨年度に引き続き好調であります。それでも、約3割の学生が就職活動を継続しています。厳しい洗礼を受けている学生たちですが、それでも志気を奮って活動を続けています。彼らの活動をさらに支援するため、10月22日(火)13:00から、八木山キャンパス4号館体育館を会場に「4年生・修士2年生・既卒者対象学内合同企業説明会」を開催いたしました。

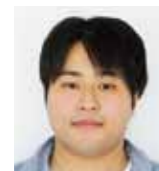
昨年を上回る77社の企業がこの趣旨に賛同し、本学学生をぜひ採用したいということで、合同企業説明会に参加していただいたものです。

参加した学生97名は、企業ブースを訪問し、熱心に人事担当者とのやりとりを行っていました。



就職部・キャリアサポート課は、厳しい就職活動を続けている学生たちに全力を尽くして支援します。最後まで決してあきらめず、自分自身のためだけではなく、社会のためにどのように役立つことができるのかという、気概を持って就職活動に取り組むことを期待します。

インターンシップ



自己分析を明確に

たかはし さとる
高橋 智

実習先：株式会社建築工房零
環境情報工学科3年

5日間のインターンシップでは、お客さま宅での打ち合わせ、雨水タンクの取り付け、新築の引き渡しなどに参加しました。主に建築の分野ですが、東北の木を使用することで森の活性化を行うこと、化石燃料を使用しない薪ストーブなど、さまざまな部分で環境に携わることができました。

インターンシップに参加するまでは、就職活動に対する自己分析に迷いがありました。しかし、お客さまや社員の方のアドバイスを受け、自信を持つことができ、就きたい職種を明確にすることができました。

今回の経験から学んだことを、これからの就職活動に生かし頑張りたいです。



幅広い知識と視点

いとう えり
伊藤 えり

実習先：HMK デザイン
クリエイティブデザイン学科3年

今回のインターンシップでは、仙台のおみやげづくりに取り組み、企画から商品化を視野に入れたモデル作りまでを行いました。課題を通して、設計について深く学ぶことができました。設計は、コストを考えたデザイン検討や使用部品の設定を行い、デザイナーとエンジニアを結ぶ役割も担っています。設計を学び、理論的に考えられるようになったことで、アイデアを短時間で多く出せるようになりました。

今回の経験の中で、さまざまな視点で見ることで、幅広い知識で考えることの重要性を実感しました。今後も知識を広げながら実習に生かしていきたいです。



スケジュール

日程	行事
5月8日・9日	説明会
5月27日	エントリーシート提出
6月中旬～7月下旬	マッチング
7月11日・24日	事前研修会
夏季休業期間	インターンシップ実施
10月4日	報告会
1月下旬	単位認定申請
3月下旬	単位取得

参加人数(平成25年度) (単位:人)

工学部	3年生
知能エレクトロニクス学科	3
情報通信工学科	13
建築学科	3
都市マネジメント学科	1
環境エネルギー学科	1
合計	21

ライフデザイン学部	2年生	3年生
クリエイティブデザイン学科	3	38
安全安心生活デザイン学科		32
経営コミュニケーション学科		2
合計	3	72

本学大学院の特徴

本学大学院は、持続可能な社会に寄与する科学技術、環境技術、産業、生活、芸術文化に関わる高度な専門性と卓越した創造性、統合的能力を有する技術者ならびに研究者を育成し、わが国、特に東北地方の産業界で指導的役割を担う人材を養成することを目的に平成4年に設置されました。これまで約600人の修士生が社会のさまざまな方面で活躍しています。

現在、工学研究科とライフデザイン学研究科の2研究科に計6専攻があります。各専攻とも定員に比べ大学院担当教員数が多く、まさに少人数教育を行っており、授業、研究指導ともに充実した内容となっています。

さらに、東日本大震災からの復興を加速すべく「災害技術国際センター」を創設し、両研究科に設置された3専攻横断の「災害に強いまちづくりプロフェッショナルコース」が開設され、復興人材の育成も進めています。

また、これまで、「ハイテクリサーチセンター」の設置などにより研究設備の充実を図ってきましたが、平成25年度、工学研究科が中心となって「生体医工学研究センター」を新設し、この方面の研究が活性化して大学院の魅力が一層増すこととなりました。

学生諸君には、ぜひ、学部での基礎的素養を踏まえて、大学院で先端技術やデザインの研究開発に関わる専門知識・技術を身に付けるべく進学することを期待しています。

工学研究科/電子工学専攻

博士(前期)課程/博士(後期)課程

電子工学はIT(情報技術)社会を支える基幹技術です。本専攻はシステム、センシング、デバイスの3分野からなり、材料からデバイス、医用を含む計測や制御、ロボットに代表される知能システムまでの、幅広い分野にわたる教育・研究が行われています。博士(前期)課程では高度なエンジニアを、博士(後期)課程では研究者を養成します。

- システム分野 ■センシング分野 ■デバイス分野

工学研究科/通信工学専攻

博士(前期)課程/博士(後期)課程

博士(前期)課程では、講義と研修を通して情報通信に関する理論や技術を中心に学びます。専攻の各分野における技術者と研究者の養成を目的に、高度な技術力と総合力、さらに豊かな想像力をもつ人材を育成します。課程修士生は専門知識が豊富で応用開発能力に優れていると、多くの企業から高い評価を得ています。

- 光通信工学分野 ■電磁波動工学分野
- 基礎情報工学分野 ■情報処理工学分野

工学研究科/建築学専攻

博士(前期)課程/博士(後期)課程

建築物が完成するまでには、大まかに計画→設計→構造→見積・生産・施工→環境設備といった5つのステップを踏みます。本専攻はこのステップに対応した5分野に分かれてホリスティックな教育を実施し、優れた建築家の育成に努めています。在籍中には、1級建築士受験資格を得るための1年間の実務経験も取得できます。

- 建築史・意匠分野 ■建築・都市計画分野
- 建築環境工学分野 ■建築生産工学分野
- 制振構造学分野

工学研究科/土木工学専攻

博士(前期)課程/博士(後期)課程

本専攻には下記の5研究分野があり、それぞれの分野ではわれわれの日常の暮らしを支える社会資本に関わる重要なテーマについて教育・研究を行っています。大学院生は学部での教育に続く現代の最新の科学・技術に関する知識を学ぶとともに、主体的に研究を行うことによりさらに実力をつけることができます。

- 土木材料・構造工学分野 ■地盤工学分野
- 水圏の利用と防災分野 ■土木計画学分野
- 地域の水循環分野

工学研究科/環境情報工学専攻

博士(前期)課程/博士(後期)課程

本専攻は5分野から成り、非常に幅広い領域について研究することができます。研究室においては、研究する過程において環境工学と情報工学を有機的に結び付け、最先端の実験方法を修得していきます。環境問題解決のため、社会に貢献できる専門的な知識、技術を身に着けたエンジニアの育成を目指しています。

- エネルギー工学分野 ■環境応用化学分野
- 環境マネジメント分野 ■水環境・生態系保全分野
- 環境光エネルギー分野

ライフデザイン学研究科/デザイン工学専攻

博士(前期)課程/博士(後期)課程

デザイン工学は、モノと人間とのインタラクション、自然との共生、地域における産業経済問題の上に論じられる統合科学です。本専攻は4研究分野からなり、各分野の研究を通して東北を背景に、高度な思考力と実践力、国際感覚を持つ創造的な人材を養成しています。大学院の学びは学部以上に人生の可能性を広げるものと思います。

- 産業デザイン計画分野 ■環境造形計画分野
- 福祉デザイン計画分野 ■生活デザイン科学分野

大学院修士生の声



自然に潜む未知の
法則を発見する魅力

Trinh Quang Duc (チツクワンダック)

ハノイ理科大学 電子通信学部 生体医工学科 講師
工学研究科 電子工学専攻 博士(後期)課程
小林研究室 2012年修了

私は現在、母国ベトナムのハノイ理科大学で講師として教鞭をとっています。博士課程ではレーザーで生体を断層撮影する技術の研究を行いました。日本への留学前には経験のなかった分野だったので当初は苦労しましたが、医学に役立つ非常にチャレンジングな研究に次第に魅了されていきました。新しい原理に基づく手法の研究は、成功と失敗の繰り返しで、期待通りの結果が得られないことも多々ありましたが、そんな中から新しい発見があり、ついに原理の解明にたどり着きました。大学院博士課程は、誰も知らない自然の法則を自分の力で解明する、とても魅力に満ちたところだと思います。(原文英語)

大学院生の声



研究に没頭することができる大学院

いしい りゅうまけ
石井 隆介

工学研究科 環境情報工学専攻
博士(前期)課程 2年 葛西研究室

大学院では、学部のととき比べ講義が少人数となり、かなり専門的になります。また、TA*やRA*として後輩の実験指導をしたり、自分の研究を学会で発表したり、学部ではできない経験ができます。私の研究は、がん細胞の増殖や分化による細胞形状の変化などの微細挙動を捉えるために、電気化学インピーダンス法という手法を用いて細胞機能解析を行っています。研究は、文献を読んだり、実験方法を考えたり、これまでに誰もやっていなかったことに没頭して徐々に自分自身で切り開ける面白さがあります。ぜひ大学院に入学して、専門的なことを深く学びながら研究に没頭して新しいことに挑戦する楽しさを体験してください。

*TA:ティーチングアシスタント *RA:リサーチアシスタント

大学院進学に伴う学費等

	本学卒業生等	本学外からの入学者
入学金	—	250,000
授業料	900,000	900,000
設備負担金	—	260,000
学生諸費分担金	20,000	20,000
合計	920,000	1,430,000

●上記の他、「学生教育研究災害傷害保険料」(2年分1,750円)と「学生会費」(年額1,000円)が必要です。
●2年次以降は、の部分の納入となります。

奨学生制度・補助

大学院生のために、『日本学生支援機構奨学制度』と『東北工業大学大学院奨学生制度』があります。本学大学院奨学生制度は、人物・成績優秀者を対象に各専攻1名に対し年額240,000円が給付されます。

また、指導教員の研究補助業務(リサーチ・アシスタント)を行う場合、月額20,000円を上限に、最高で年額240,000円を支給する経済支援も行っています。

その他の公的・私的な奨学金についての詳細は【学生課 022-305-3122】

大学院入試にも『特待生』制度を設置
詳しくは、入試広報課まで。
(022-305-3111)